

6 札幌の景観色70色・使用上の解説

カラーチャートの70色は10のタテ列、7のヨコ列でできています。タテ列は色相の列で赤系(第1列)～無彩色(第10列)まで。ヨコ列は明度9.0前後(A列)～2.0前後(G列)の列です。この70色の各色ごとに一般的呼称を付け、それぞれに持っている色の属性や使用上の要点などを配色票で解説しています。配色票では、1つの色と「グループ化された色との関係」を見ることができます。

- ① 色の配置：「両隣」を意識した配色
- ② 3色配色構成：アクセントカラーの考え方(割合・リズム・バランスなど)
- ③ 全体構成：街並みなど、より広い面積において全体に対する効果的な割合と配色

色の特性については、全体の景観色を配色構成で考えるときの参考にしてください。

*お願い： 70色は、特色インクや特定の色材の固有色のような既製品とは対応していませんので、記載しているマンセル値を参照してください。色名には市内の地名と同じものがありますが、札幌市固有のイメージカラーを意識していただくためにネーミングしたもので、その地域について特定のイメージを与えるものではありません。

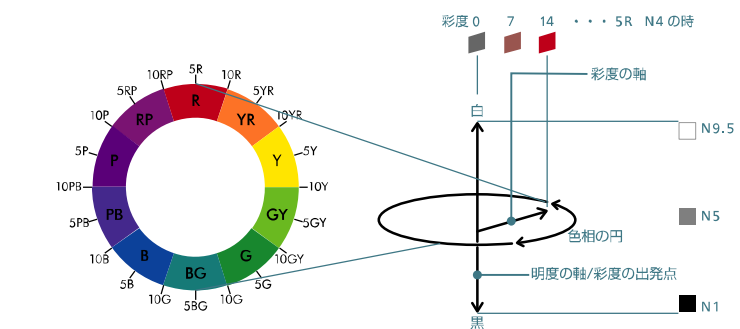
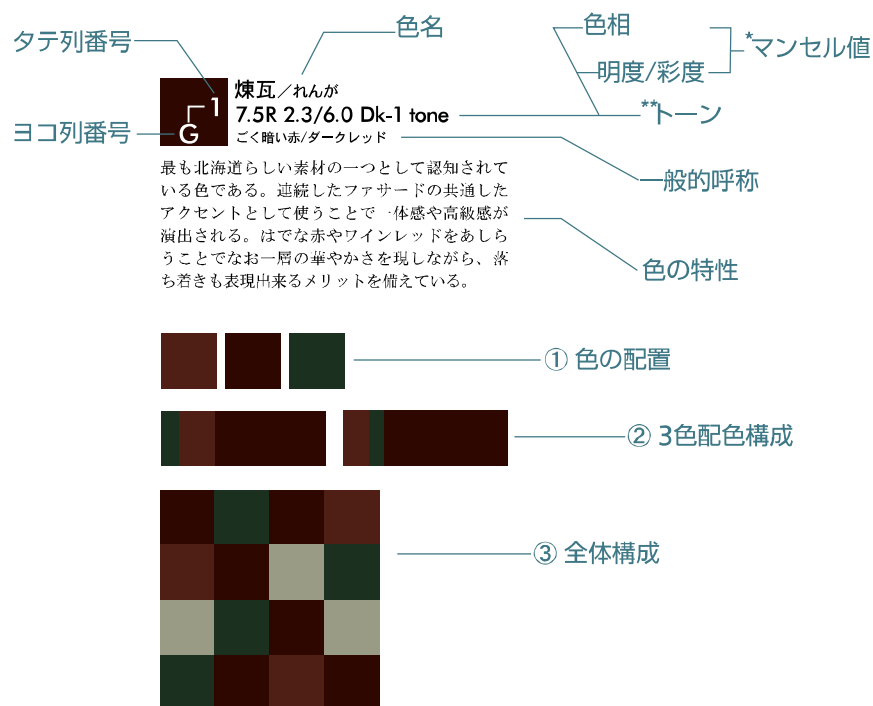


図9：*マンセル値 色相 [Hue]・明度 [Value]・彩度 [Chroma] の関係
5Rの純色はマンセル値で表すと、5R 4/14 となる。

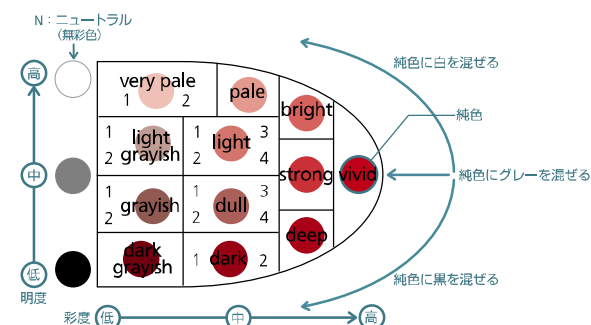
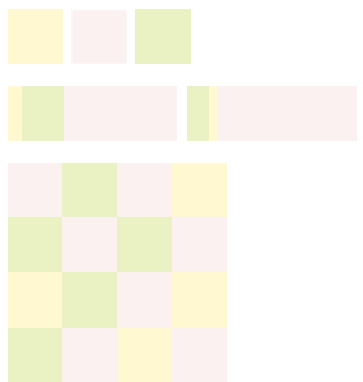


図10：**トーンによる分類 [日本カラーデザイン研究所による]
明度と彩度から生まれる色の調子。各色相ごとに同じように展開される。

カラーエッセンス70 - 配色票 -

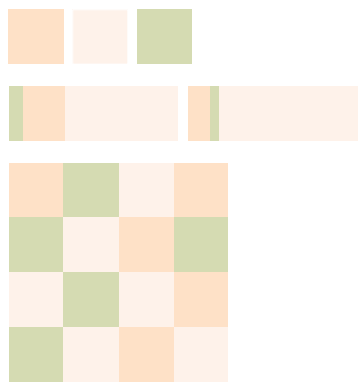
1 薄桜/うさざくら
10RP 9.0/0.8 Vp-1 tone
ごくうすい赤/ペールピンク

この色はかなり大きな面積に単色で使用可能である。平面的な処理に加えて少し表情を変化させ、艶や光沢感を多少消すなどでデリケートな陰影がつく。周りの淡いトーンとの比較によって持ち味が広がる。春の夕暮れ時や、朝日が当たるとより一層色みが強調される。



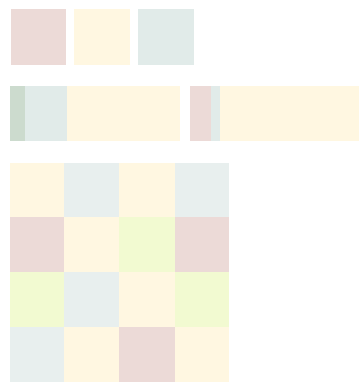
2 雪灯/ゆきあかり
2.5YR 9.0/0.5 Vp-1 tone
ごくうすい橙/ペールクリーム

この色はいろいろな場面に大きくも小さくも使い勝手の良い特徴を持つ。特に光沢があってもなくてもそれなりに見やすくガラスやアルミなどの金属的な材料とも合わせやすい。一日中どの方位からも同じような見え方になり、陰影もデリケートにつき処理しやすい色である。茶系の濃淡や木々の緑ともマッチングしやすく自然に馴染みやすい。



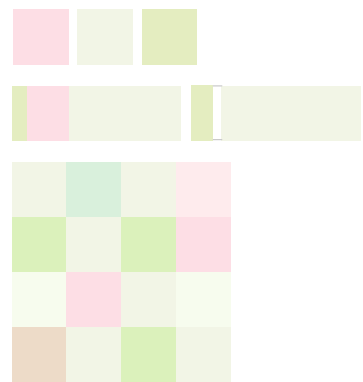
3 乳白/ミルクスノー
10YR 9.0/0.5 Vp-1 tone
ごくうすい橙/ペールクリーム

白に近いが白ではない。建築物に最も多く使われるアイボリーホワイトである。外装から内装、橋梁やテラスや装飾的な手すりなど大面積から小面積まで使い方が自由な特徴を持つ。材料も豊富で、柔らかい素材からかなり硬い素材まで応用範囲が広い。



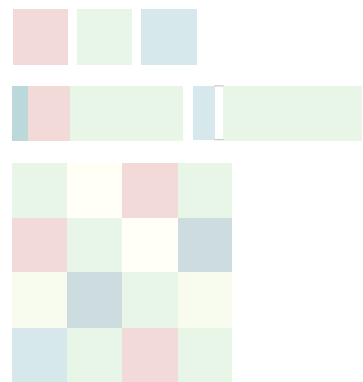
4 鈴蘭/すずらん
5GY 9.0/0.5 Vp-1 tone
ごくうすい黄緑/ペールグリーン

アイボリーホワイトよりも少し色みがあるが上品さや柔らかさを演出しやすい。表面の光沢感を少し減らすとさらに色の良さが現れる。くすんだピンクや黄緑とのアソートで全体をロマンティックに表現することもできる。



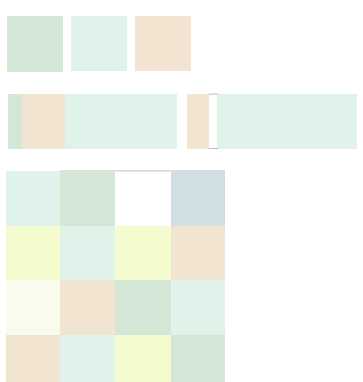
5 陽光白/シャイニングホワイト
10G 9.0/0.8 Vp-1 tone
ごくうすい緑/ペールグリーン

東側や北側に朝日が当たりまぶしく光る様子であり、金属質な仕上がりがイメージやセラミックの表面処理がふさわしい。この色に周辺の緑を映すと落ち着いたままり感が出てくる。逆に夕日がまともに当たるところでは色が変化してしまい、この特徴がなかなか出にくい。



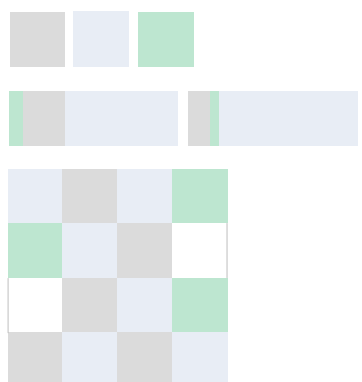
6 氷白/アイスクリーン
5BG 8.5/1.0 Vp-1 tone
ごくうすい青緑/ペールブルーグリーン

水の微笑。冷たく硬いイメージであるが柔らかな曲面やガラス、透明感のある材料との組み合わせで内部の照明効果も手伝って控えめな優しさが伝わる。特に陽が短い北国の冬にすっきり見えて、夏場の緑にも爽やかな存在感を発揮する。



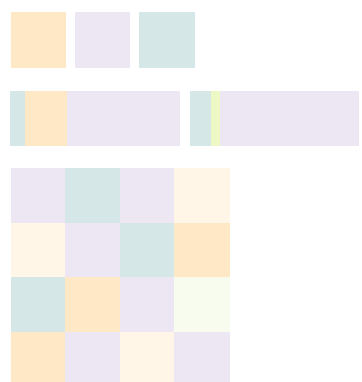
7 氷柱/つらら
7.5PB 9.0/2.0 Vp-2 tone
ごくうすい青紫/ペールパープル

この冷たさは大面積になるとさらに強調される。全体にデザイン形状が縦横割や細い部分に使われる。金属質のグレーや濃紺と組み合わせられてそれなりの力強さを構成できる。細かなビントライプや全体にスモークをかけるなど表情を変えるといういろいろな場面に使えるようになる。



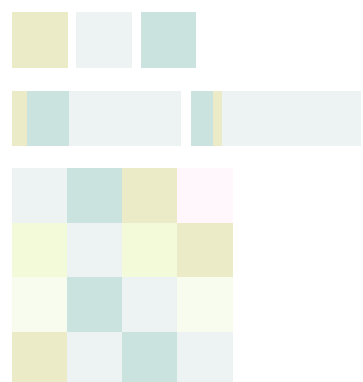
8 雪花/せつか
2.5P 9.0/2.0 Vp-2 tone
ごくうすい紫/ペールパープル

ほんの僅か紫色がさしてある。昼間の自然光ではほとんど白に見えるが、朝夕の光では微妙な色味が演出される。表面のざらつきやパターンなどでエレガントで気品のある外観に仕上がるが、派手な色や濃いトーンを加えるなどの使い方を間違えると極端にイメージが下がってしまう。



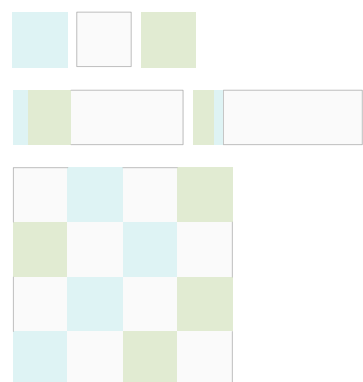
9 水晶白/クリスタルホワイト
10B 9.0/1.5 Vp-1 tone
ごくうすい青/ペールブルー

ほんのり青みを感じる程度のクールな白。鏡面やラスタースなどの組み合わせなど広く使われる白の範囲であり、凹凸の変化で陰影がつくとなお一層色みが強く感じられる。微妙であるがすっきりとした構造物を印象づけてくれる。



10 新雪/しんせつ
N9 N9
白/ホワイト

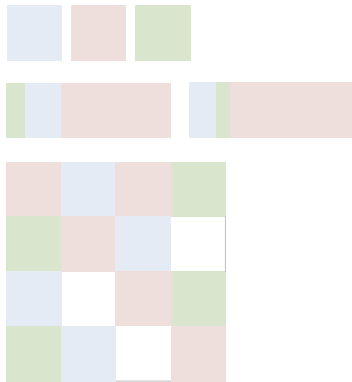
これほど色として使い勝手の良い色はない。無彩色の中でどこに使われても問題のない非常に便利であるが、使い過ぎると全体に薄められてしまいインパクトが弱くなる。そのためこの色にグレーを加えて多少灰色にくすませて使われることが多い。退色や汚れなどメンテナンス上の問題はありますが、この白を多様することはセンスアップさせるもっとも簡単な配色効果の一手法である。



*この資料は印刷による表現であり実際のマンセル値とは異なりますので、正確には塗装見本を参考にしてください。

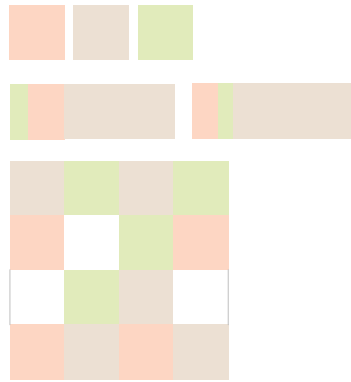
1 綿毛／わたげ
5RP 8.5/0.5 Vp-1 tone
うすい赤/パールピンク

ほとんど白に近いピンクは優しさと柔らかさを現し、ソフトな手触り感や品質感を高める効果がある。あくまでもマット仕上げが基本であるが、ほんの少しだけ光沢を与えたり、水滴がついたりするもっとも輝きを放つ色の一つである。白や明るいグレーとのコンビネーションでさらにソフト感や上品さを強調できる。



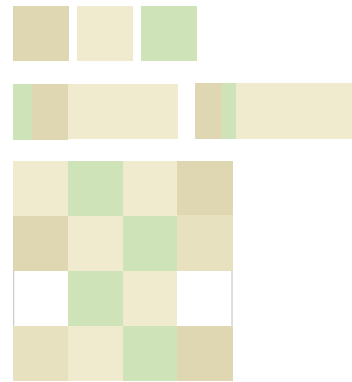
2 百合が原／ゆりがはら
5YR 8.5/0.5 Vp-1 tone
うすい橙/パールクリーム

少し厚みや凹凸が加わることで見え方が変わる特徴を持っている。色味のあるアイボリーであり、全面的な使い方次第ではかなり落ち着いた印象を与える。少し汚れてくると味わいが出てくる色でもある。生成りにも近く、素材や生地の良さ、無垢材の持ち味を活かす色として使われる。



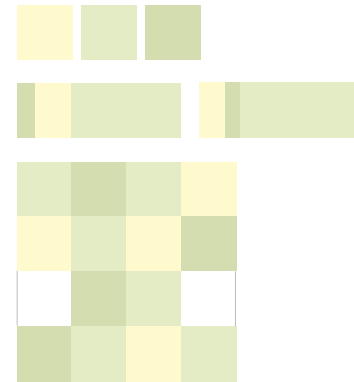
3 白樺／しらかば
7.5Y 8.5/1.0 Vp-1 tone
うすい黄/パールクリーム

ノーブルなアイボリーであり、すっきりした印象を与える色である。大面積に使うよりも大きく分割をして配色として使う方が効果的である。木部とのマッチングもしやすく、土色や煉瓦などとのバランスも取りやすい。ナチュラルイメージに仕上げるには、外せない大切な色である。



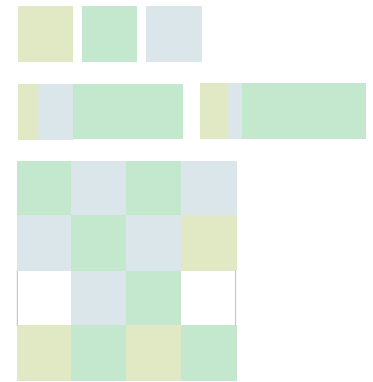
4 露の臺／ふきのとう
5GY 8.5/1.5 Lgr-1 tone
うすい黄緑/ライトグレイッシュイエローグリーン

落ち着いた上品さと素材の持ち味を大切に表現してくれる色である。夕暮れ時の光で一層陰影がついて深みが増すと美しく感じられるトーンであり、形やディテールの表現にデリケートな対応ができる。



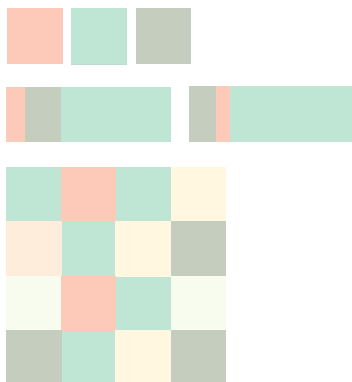
5 氷雨／ひさめ
7.5G 8.0/2.0 Lgr-1 tone
うすい緑/ライトグレイッシュグリーン

微妙すぎてかえって使いにくいかもしれない。スッキリとしたしなやかな構造体としての緊張感も表現しやすい色である。軽くて薄い材料の質感を的確に選ぶことが求められる。決して簡単に安い材料では仕上げない方がベターである。都会的な洗練さを上手く表現できる色として有効である。



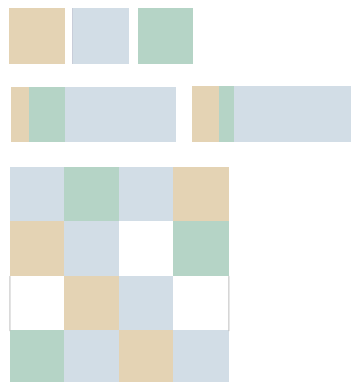
6 雪まつり／ゆきまつり
5BG 8.0/2.0 Lgr-1 tone
うすい青緑/ライトグレイッシュブルーグリーン

この色の青みは使いやすく、配色もしやすいが取り込む色によってはバランスを崩すことにもつながる。塗装でもタイルでも人工的な素材とのコンビネーションで一層すっきりとした印象に仕上がる。北国ならではの色味であり、寒色系の大面積カラーとして使いやすい。



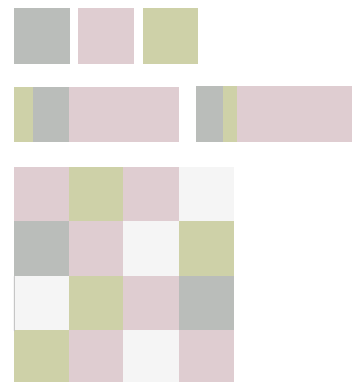
7 雪虫／ゆきむし
6PB 8.5/2.0 Lgr-1 tone
うすい青/ライトグレイッシュブルー

北国の光や季節感に対応した色のトーンであり、一瞬は暗く感じるがオールシーズンで考えるならば穏やかで落ち着いたイメージになる。仕上げ素材の耐久性や汚れ具合を想定して使い続けるとかなり風土を意識した使い方につながる。



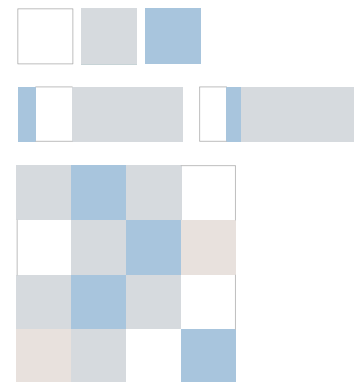
8 リラ霞／りらかすみ
5RP 8.0/1.5 Lgr-1 tone
うすい紫/ライトグレイッシュパープル

かなり赤み、紫みを感じる色であるが大面積になるともう少し白っぽくなる。これも夕暮れや夜間照明では昼間と違った色に映る可能性がある。構造物の形状によっては、色味自体がデリケートで、ソフトイメージのために、似合う似合わないがはっきりしてくる。特にこの色は優しさと上品さを感じさせてくれる。



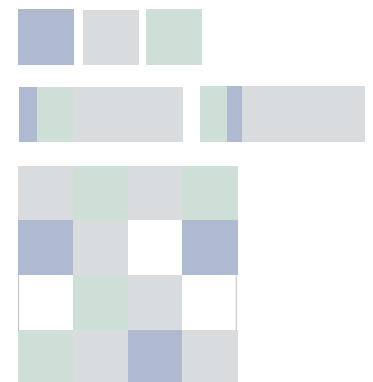
9 凍白／とうはく
10B 8.0/1.5 Vp-1 tone
うすい灰青/パールブルーグレー

大面積には使いにくい、部分的には大胆な使用が考えられる。夏の爽やかさもあがるが雪とのマッチングも美しく、真夏の濃い緑ともバランスが取りやすい特徴も持っている。中高層部で縦長のアクセントゾーンに使える色である。



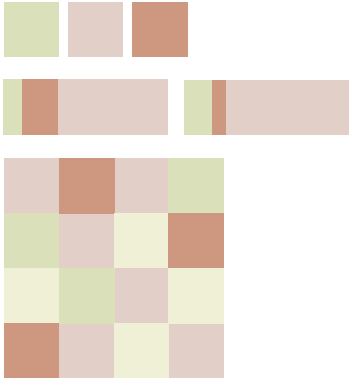
10 霧氷／むひょう
PB N8.5
うすい灰/ライトグレー

多くの外壁に使われているポピュラーな色であり、普通に見かけるコンクリートの色が代表しているライトグレーに、ほんの少しだけ青みが入るとすっきりして見える。少し色味を足したことで、時間的な経過に耐えられるようなイメージになり、全体のバランスも取りやすくなる。



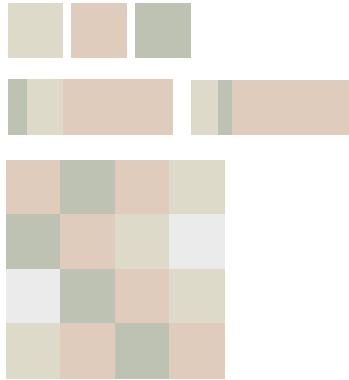
C¹ 白茶／しらちゃ
10R 8.0/1.0 Lgr-1 tone
明るい赤/ライトグレイッシュブラウン

これは一般的な赤みのページジュの範囲に入り、多くの場面で最も使いやすい色の一つである。樹木の幹や煉瓦、土や砂などの天然素材とのマッチングに優れている。馴染みやすく自然に溶け込み、それなりの色味として主張もする魅力的な色である。



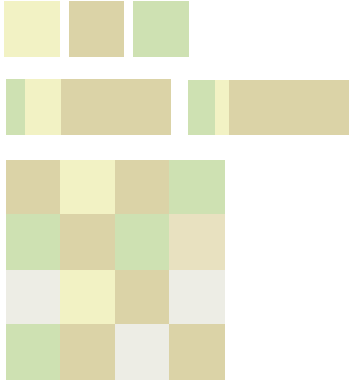
C² 雪消水／ゆきげみず
7.5YR 7.5/1.0 Lgr-1 tone
明るい橙/ライトグレイッシュページジュ

この色も一応ウォームページジュの仲間であるが、荒々しく太い木材などと組み合わせられたり、少しくすんだイメージで素焼きのタイルやマットな仕上げが似合う色である。複雑な形状や凹凸に光が当たることによって変化を表現しやすい色である。鉄や石等を背景として支えるのに有効な色の一つである。



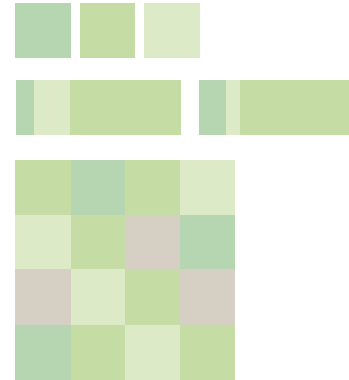
C³ 札幌玉葱／さっぽろたまねぎ
5Y 8.0/2.0 Lgr-1 tone
明るい黄/ライトグレイッシュイエロー

クールページジュで生地のままをイメージする色であり、自然の濃淡を感じさせる。砂岩や自然石に多く建築素材としてはポピュラーな色である。パリの古い街並みを構成している建造物に多く見かけられる石の色でもある。



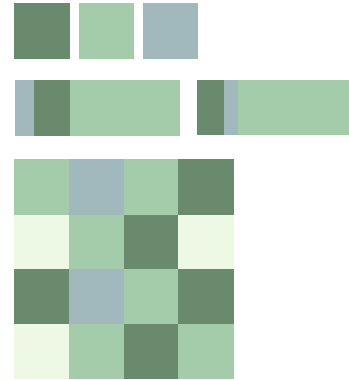
C⁴ キャベツ／きゃべつ
5GY 8.0/2.0 Lgr-1 tone
明るい黄緑/ライトグレイッシュイエローグリーン

かなり不思議な色で日本の大規模建造物にはあまり見かけない。街中のアクセント的な場所やシンボリックなゾーンで展開されると効果的である。また、郊外の林や森を背景とする構造物にはそのまま使えるが、仕上げの質感を高めることが必要となる。



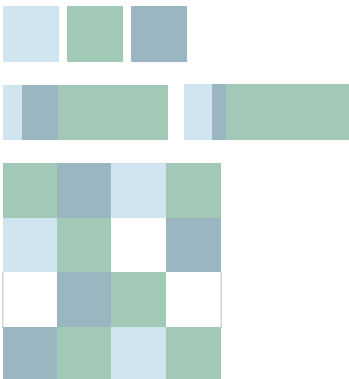
C⁵ 創成柳／そうせいやなぎ
5G 7.0/2.0 Lgr-2 tone
明るい緑/ライトグレイッシュグリーン

日本の伝統的な色の一つである。中低層部分に大きめのスペースで高級な材料でアクセント的な配色に使うと一層効果的に見せられる。雪国のピンク肌にもマッチングするが、多少日陰や地味な場所が向いている。あまり明るすぎる場所ではこの色の良さが発揮しにくいと思われる。



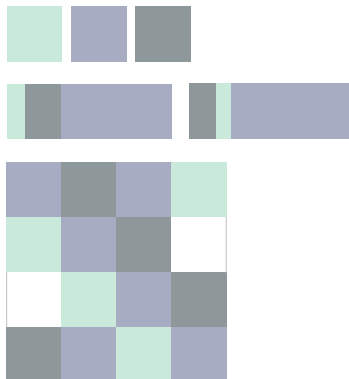
C⁶ 樹水／じゅみょう
5BG 7.0/2.0 Lgr-2 tone
明るい青緑/ライトグレイッシュブルーグリーン

人工的な色を感じさせてくれる。プラスチックやアクリル、ガラスなどの透明感や透ける素材加工などと組み合わせるとよりモダンさが表現できる。すっきりとした軽さで全体の構造を見せるには最適である。



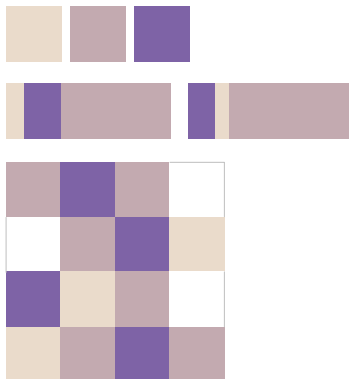
C⁷ 雪影／ゆきかげ
6PB 7.0/2.0 Lgr-1 tone
明るい青/ライトグレイッシュブルー

構造体で黒や紺等の緑取りで使われることが多い。陰影がつくとさらに暗いブルーとなり存在感が増してくる。これも北国の環境では、特にすっきりとしたイメージになりどの季節にも対応する便利な特徴を持っている。



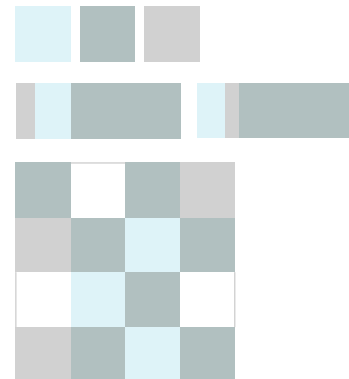
C⁸ ライラック／らいらく
5RP 7.0/2.0 Lgr-2 tone
明るい紫/ライトグレイッシュパープル

この色一色で全体を配色するにはかなり勇気が必要かもしれない。ソフトでデリケートなイメージで、構造体として配色全体の弱さを感じてしまうかもしれない。より効果を高めるには、白やグレーを加えて全体を上品に仕上げる配色センスが求められる。



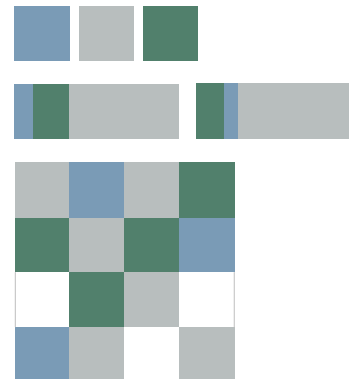
C⁹ 薄氷／うすこおり
2.5B 7.0/2.0 Lgr-2 tone
明るい灰青/ライトグレイッシュグレーブルー

大面積になると青みが感じられるようになるが、それほど何処にでも使える色ではない。白やグレー以外に濃紺や黒を効かせることでメリハリのついた緊張感のある構成にも仕上がる。



C¹⁰ 銀鱗／ぎんりん
PB N7.5
明るい灰/ライトグレー

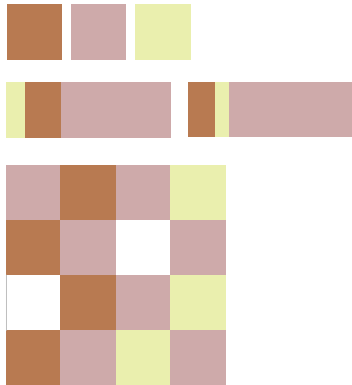
じっくりと落ち着いたイメージを演出するには最適な色である。材料の重さや手触り感、凹凸感等が加わって、さらに陰影がついた状態で初めてこの色の良さが伝わる。表面の微妙な変化で見え方が違ってくるが、あまり細かな変化は似合わない。早春や晩秋の寂しい季節にも、しっかりと存在感を示してくれる。



*この資料は印刷による表現であり実際のマンセル値とは異なりますので、正確には塗装見本を参考にしてください。

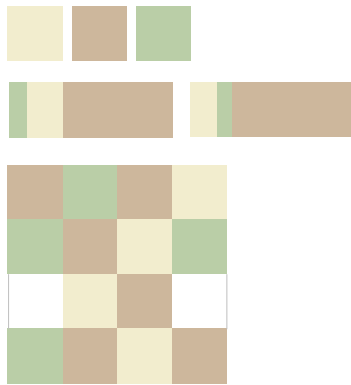
カフェオーレ／かふえおーれ
 10R 7.0/1.5 Lgr-2 tone
 くすんだ赤/ライトグレイッシュブラウン

この色調は上そのものが乾燥した状態であり、自然の色そのものに近い。かなり長く使っても決して飽きがこない特徴を持ち、質感や表面の微妙な変化を付けやすい色である。低層から高層までどんな素材にでも、コストに関係なく使い勝手の良い色である。



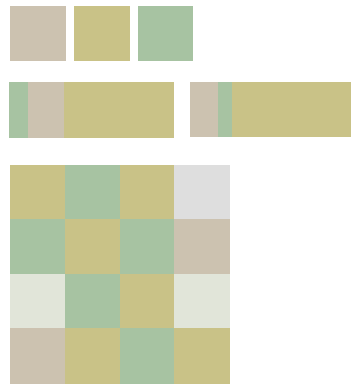
ベージュ／ペーじゅ
 1Y 7.0/1.5 Lgr-2 tone
 くすんだ橙/ライトグレイッシュベージュ

オーソドックスなベージュであり、あらゆる色の背景として使われる色の代表である。周りの色と馴染みやすく街並みなどの景観構成や複合施設などの基本色として使われることが多い。上品な仕上げにもなるが、コストダウンやメンテナンスなどの条件を考慮しやすい色である。



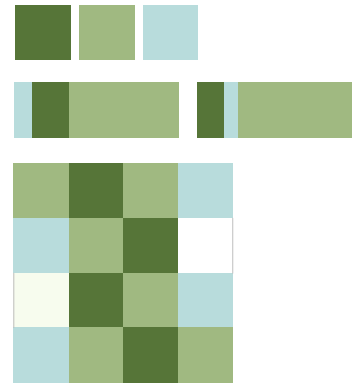
薄／すすき
 7.5Y 7.5/3.0 Lgr-1 tone
 くすんだ黄/ライトグレイッシュイエロー

微妙な色であり、上手に使うにはそれなりのセンスが求められる。春や秋のイメージにはしやすいが、夏の強い陽射しではそれほど綺麗に見えない。デリケートに陽射しをコントロールできる構造ならば、この色味の良さが発揮できる。艶を消した深みのある素材で仕上げるのが、シンプルな形態を「層活」してくれる。



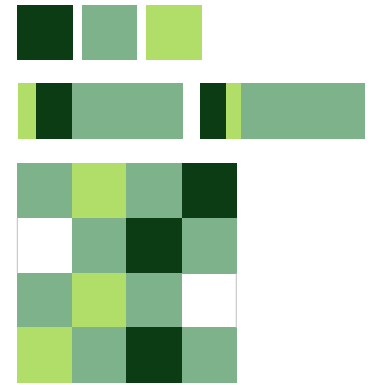
中の島／なかのしま
 5GY 6.5/2.0 Lgr-2 tone
 くすんだ黄緑/ライトグレイッシュイエローグリーン

落ち着いた雰囲気大人の印象を与える色である。ファッションブルなイメージと伝統的なクラシックな持ち味の両方を演出できる不思議な魅力を感じさせる色である。ベージュやグレーと配色構成されると効果的である。さらに薄いブルーなどが配置されることでさらに上品な仕上がりとなる。



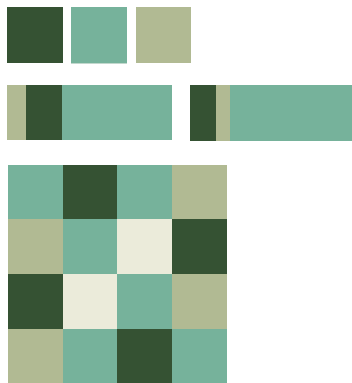
楡／えるむ
 2.5G 6.2/4.0 L-2 tone
 くすんだ緑/ライトグリーン

アクセント的に使われる色であるが、かなり都会では目立つ色でもある。自然の緑が豊かな背景ではそれほど効果がないが、ガラスやスチールなどの人工的な素材だけで構成された都市環境では、かえって優しいナチュラルな印象を与えてくれる。



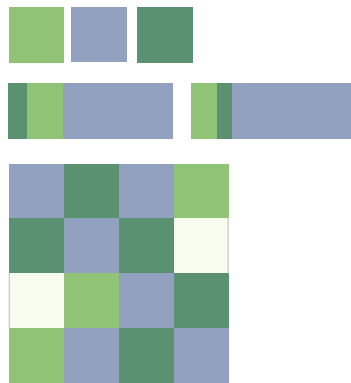
山鳴らし／やまならし
 5BG 6.0/4.0 L-2 tone
 くすんだ青緑/ライトブルーグリーン

深いイメージが全体に広がるようなクローズされた空間で使われることで、この色の深みのある特徴が一層活かされる。自然環境が豊かな背景ではこのくらいトーンを下げないと、自然そのものが持っている緑の美しさに負けてしまう。白やライトグレーの線取りが加わるとすっきりとしたイメージに仕上がる。



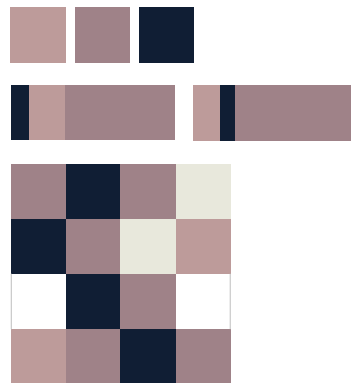
蝦夷延胡索／えぞえんごさく
 6PB 6.0/5.0 L-3 tone
 くすんだ青/ライトブルー

暗いブラウンやブラックなどを使った重厚感のある構造物に対して、奥まったスペースのアクセントとする程度が素直な使い方としてふさわしいと思われる。構造物全体に使うには強すぎて使いにくい、緑的な部分や軒裏や天井など隠れた部分には適している。



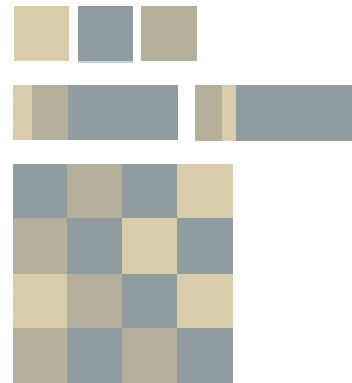
藤野／ふじの
 5RP 6.0/2.0 Gr-1 tone
 くすんだ紫/グレイッシュパープル

くすんではいるがそれでも色味があり、かなり大面積には使いにくい色である。基本的にグレイッシュピンクは綺麗に見えるがそれなりに彩度を押さえて使うことが大切である。紺色やダークな灰色等の多少暗めのアクセントを加えて、全体を引き締めるバランス効果が必要になる。



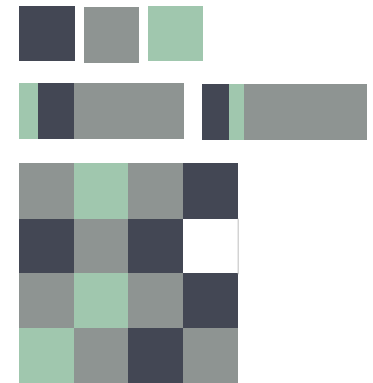
札幌軟石／さっぽろなんせき
 5B 6.0/1.5 Lgr-1 tone
 くすんだ灰青/ライトブルーグレー

実に高級感がある格調高いグレーである。ちょっとした青みとその材料の深みや重さを感じさせ、配色バランスも取りやすいためどんな形態の構造物にも向いている。秋から冬にかけて目が短くなるとなお一層この色の良さが伝わりやすい。



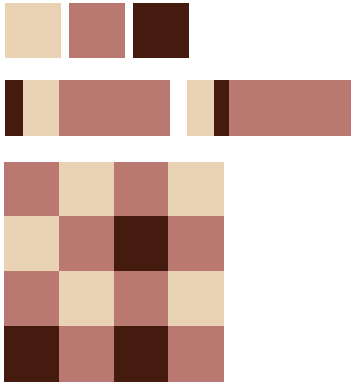
吹雪／ぶりぎーど
 PB N6.5
 くすんだ灰/メディウムダークグレー

公共の大型の施設や構造物で、周りにとけ込ませるため効果がある色である。煙突や鉄塔、橋梁や橋桁、ガードレール、照明灯など存在はしてもそれほど強調して見せなくてもすむ物に適している。曇り空に自然と馴染んで消えて見える現象もカラーコントロールとして有効な手段である。



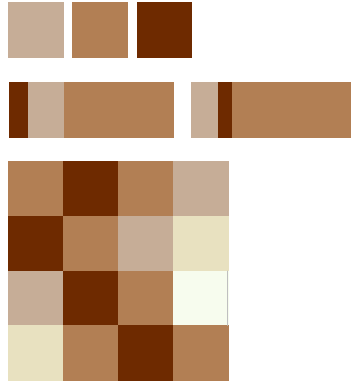
1 ミルク金時／みるくきんとき
10R 5.7/4.0 L-2 tone
濃い赤/ライトレッド

茶色は土であり皮であり樹木の幹の色である。赤みのあるこの茶色は、赤い煉瓦色を薄めた色であり、濃い茶やグリーンとマッチングしやすい。ヨーロッパ風の伝統的なイメージや秋の落ち着いた感じを演出しやすい色である。



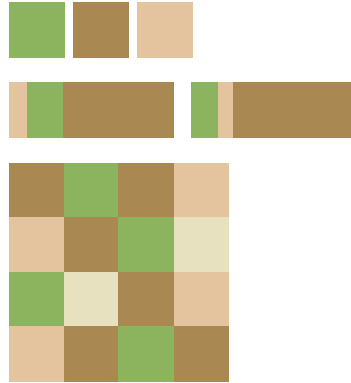
2 蝦夷りす／えぞりす
5YR 5.7/4.0 L-2 tone
くすんだうす橙/ライトレッドベージュ

秋の完全に脱色された落ち葉色であり、つや消しの落ち着いた雰囲気を持っている。特に石や破いた素材で表現しやすく、重厚感や格調といったイメージを構成しやすい特徴がある。砂色であり、木部やタイルなどの異素材でもコーディネートがしやすい色である。



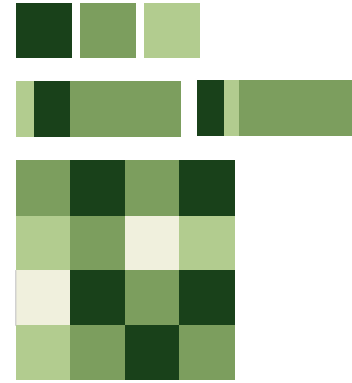
3 馬鈴薯／はれいしょ
2.5Y 5.7/4.0 L-2 tone
くすんだ黄/ライトイエローベージュ

このトーンのもつ上品なくすみや手触りや質感を高める効果をもし出す。中間的な明度彩度が、全体の調和を取りやすくしている。肌色や木材ともマッチングしやすく使われる用途も広い。



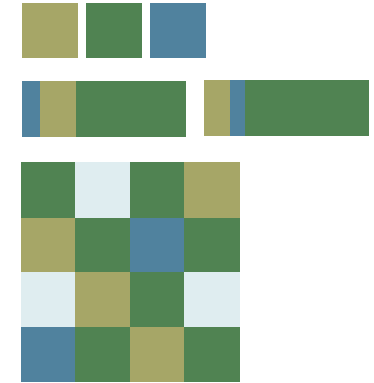
4 羊ヶ丘／ひつじがおか
7.5GY 5.7/4.0 L-2 tone
くすんだ黄緑/ライトイエローグリーン

くすんだこのグリーンは、1度葉の裏側の色に似ている。構造物と背景の植物との対比で同調させる効果を持っている。背景と上手く溶け込んで存在感をアピールできる微妙な色である。夏の木々が生い茂った状況から、真冬の枯れ枝だけになった風景までかなり年間通じて使える色であるが、大規模構造物全体を単色としては使いにくい。



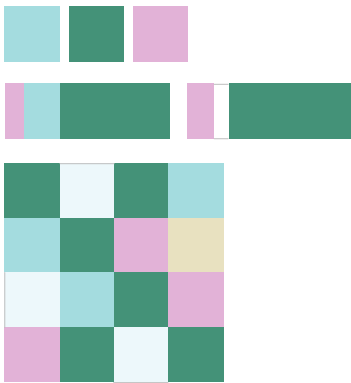
5 モエレ沼／もえれぬま
10GY 5.0/4.5 D-1 tone
くすんだ黄緑/ダライエローグリーン

夏、ゆっくり流れる川の水の色である。ちょっとくすんでいる白をアクセントとして使うことですっきりとしたイメージを構成できる。北国らしい爽やかさと落ち着きの両方を感じさせる色である。



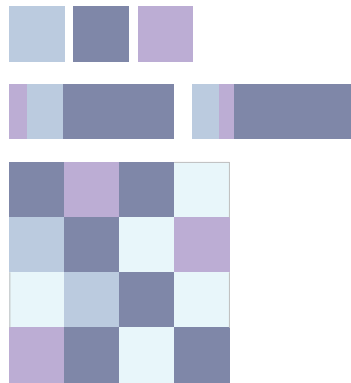
6 オーロラ／おーら
5BG 4.3/4.0 L-2 tone
くすんだ青緑/ライトブルーグリーン

かなり珍しい色相であり、使うには高度なセンスが必要とされる。日本ではここ北海道でしか使えないような色であるが、紺色やダークグレー、そして白を加えてエキゾチックなイメージを表現できる。



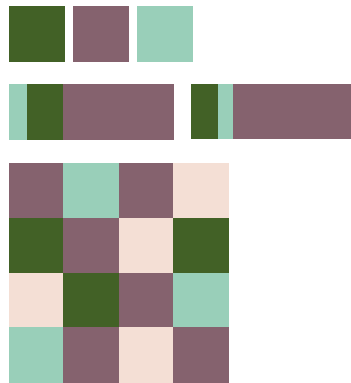
7 ラベンダー／らべんだー
6PB 5.5/3.0 L-2 tone
くすんだ青紫/ライトパープルブルー

曇りや空の色であり、そのまま使うと空と一体化して消えるような効果が期待できる。この少しのくすみで配色バランスを取りやすく、塗装でもタイルでも仕上げ素材に関係なくイメージとして使いやすい色である。陰影や凹凸が加わることで、よりシャープさが演出できる。



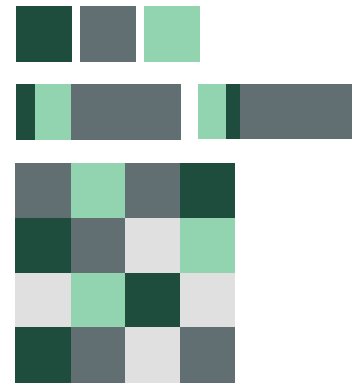
8 雁金草／かりがねそう
7.5RP 4.5/2.0 Gr-2 tone
くすんだ赤紫/グレイッシュパープル

穏やかな和風イメージも感じさせるが、反対に高貴な洋風のイメージも際わせてくれる不思議な色である。緑と組み合わせることで繊細さを表現できる。ラスターやガラス質の外壁材で多く見かけるが、多少艶を消した方がより上品に仕上がる。



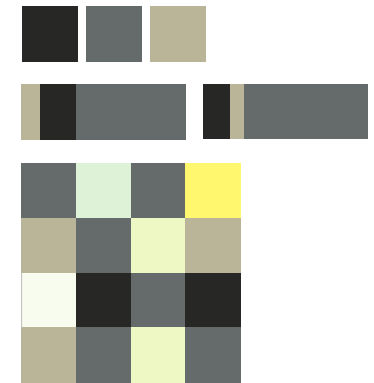
9 郭公／かっこう
5B 5.0/1.5 Gr-1 tone
くすんだ灰青/グレイッシュブルー

かなりしつかりとした構造物を強調できる色である。大面積には使いにくいですが、縦基調のアクセントや開口部の小さな構造物には使える。グレーのトーンが汚れを目立たなくしているが、全体を引き締めて小さく見せることにも使える色である。



10 蝦夷臍／えぞふくろう
PB N5.0
濃い灰/ダークグレー

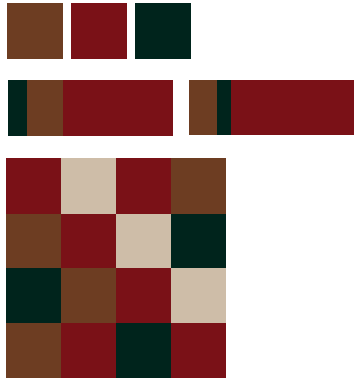
この明度では大面積には使えない。細かな細工や装飾的な部品をこの色で着彩するとほとんど存在感がなくなる効果が得られる。一般的に構造物では完全な無彩色を使うことは少なく、必ず色味が少しついていることが多い。この青みのグレーは全体の緊張感や一体感を出すには便利な色である。



*この資料は印刷による表現であり実際のマンセル値とは異なりますので、正確には塗装見本を参考にしてください。

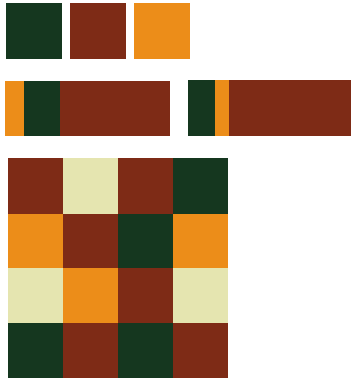
1 **ベチカ／べちか**
7.5R 3.0/8.0 Dp-1 tone
暗い赤/ディープレッド

年月が経過した煉瓦の色である。しっかりとした重さを感じる色調であり、中低層部を高級イメージに仕上げるためには使い勝手がいい色である。この色だけで使うよりもダークグリーンやゴールドとの組み合わせでさらに効果が高まる。



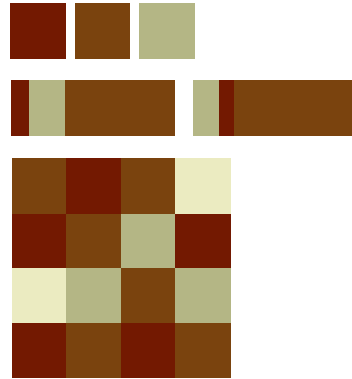
2 **蝦夷鹿／えぞしか**
5YR 4.0/6.0 Dl-4 tone
暗い茶/ダライエローブラウン

オーソドックスな茶色であり、上質な皮の色や毛並みを想像させる。ふぞろいの石積みやスレート、素焼きのタイルのイメージがあり、田舎の豊かな自然を彷彿とさせる素朴な色である。黄色に寄った茶色は、陽当たりの良い南向きの構造物に適している。



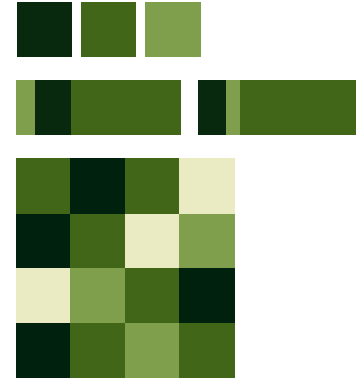
3 **ピア茶／びあちゃ**
7.5YR 4.0/6.0 Dl-4 tone
暗い黄/ダライエロー

都会的で洗練された茶色である。ざらざらした砂目や微妙な凹凸で深みがついて見える。自然の緑や焦げ茶にも馴染み、しっかりとした構造と重量感を感じさせ全体のまとまりを表現できる。光沢のあるなしや金属や鍍物のアクセント効果で一層上品な配色となる。



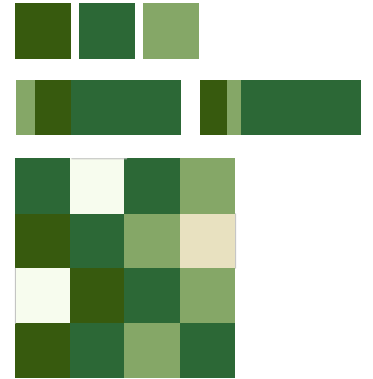
4 **藻岩山／もいわやま**
5GY 4.0/6.0 Dl-4 tone
暗い黄緑/ダライエローグリーン

普通は低層部に部分的な使い方をするが、北側や西側の壁面には大面積でも可能性がある。白とのコンビネーションを考えるといろいろな場面で使える色である。緑の濃淡で全体をまとめることで景観全体が落ち着いた印象につながる。



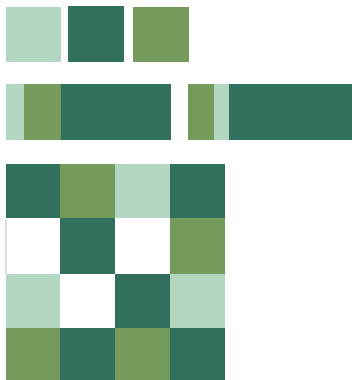
5 **三角山／さんかくやま**
10GY 4.0/4.0 Dl-2 tone
暗い黄緑/ダルクグリーン

春から夏にかけての緑を現している。曲線的な形態やなめらかな表面処理に向いているグリーンである。他のグリーンと同様に、配色上は必ず白を加えることでバランスが取れる。



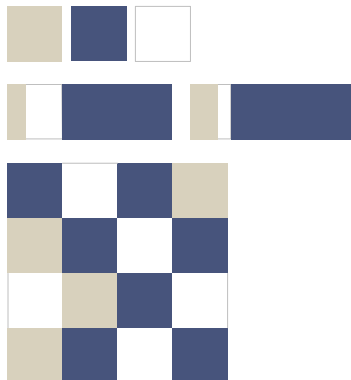
6 **ポプラ／ぼぷら**
7.5G 4.0/4.0 Dl-2 tone
暗い緑/ダルクグリーン

すっきりとした洋風のグリーンである。夏の爽やかな風を感じさせるアクセントカラーの一つである。薄いブルーとのマッチングでより札幌らしさを表現する配色が作りだせる。夜間照明では特に美しく見え、落ち着いた雰囲気を出しやすい色である。



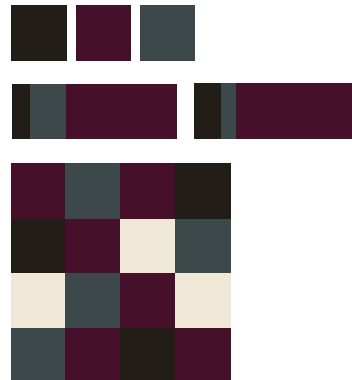
7 **豊平川／とよひらがわ**
5PB 4.0/3.5 Dl-2 tone
暗い青紫/ダルクブルー

かなり小さな面積で使われるアクセントカラーの一つである。白やグレー以外にも紺色や濃い紫などとの配色構成で、北国らしいイメージが表現できる。もっと寒色系の美しさを大切にしたいカラーコーディネートを増やしてほしい。



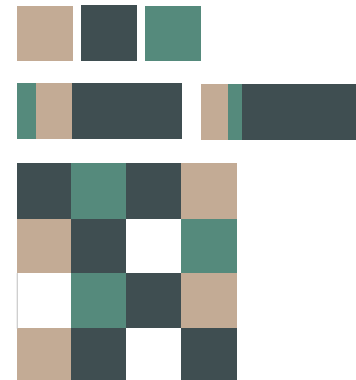
8 **小豆／あずき**
7.5RP 2.3/4.0 Dk-1 tone
暗い赤紫/ダークパープル

光沢のある石材や金属とのコンビネーションで高級感を感じさせる色である。落ち着いた大人のイメージであり、夜のライトアップでも都会的な洗練された構成を演出しやすい色である。



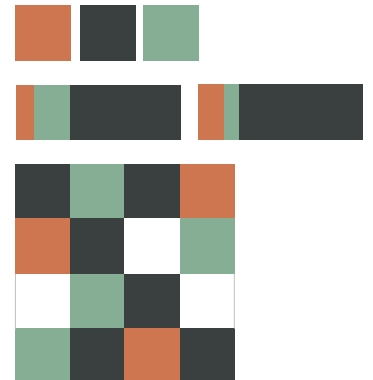
9 **石切山／いしきりやま**
10B 4.0/1.5 Gr-2 tone
暗い灰青/グレイッシュブルー

低層部から床材にかけて目線より低い部分のアクセントとして有効な色である。すっきりとした公共的な施設やインフォメーションなど、それほど強烈ではないが日立つ配色にも使える。人工的な素材で仕上げることでオールシーズンで強調される色である。



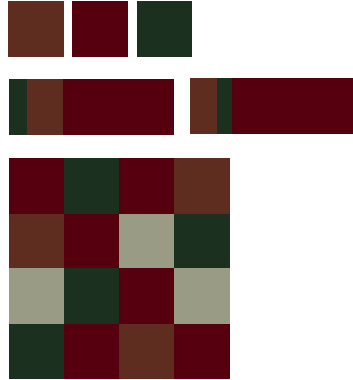
10 **開拓使／かいたくし**
PB N3.5
暗い灰/ダークグレー

しっかりとした構造を主張するためには役立つ色である。どんな気象条件でも変わらない印象に維持できるトーンであるが、真夏の陽射しにはマッチングしない。ガラスやアルミや鏡面仕上げのステールとの組み合わせでモダンなイメージに仕上がる。



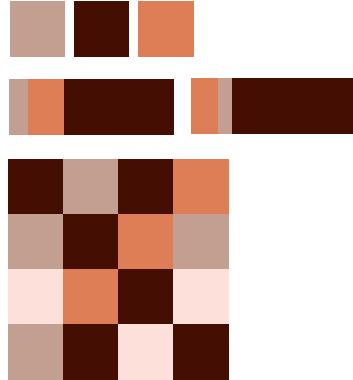
G¹ 煉瓦／れんが
7.5R 2.3/6.0 Dk-1 tone
ごく暗い赤/ダークレッド

最も北海道らしい素材の一つとして認知されている色である。連続したファサードの共通したアクセントとして使うことで一体感や高級感が演出される。派手な赤やワインレッドをあしらうことでなお一層の華やかさを現しながら、落ち着きも表現できるメリットを備えている。



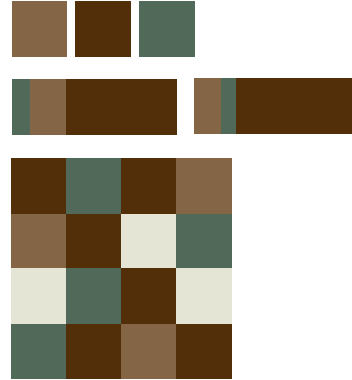
G² 生チョコ／なまちょこ
2.5YR 2.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い橙/ダークブラウン

全面をこの焦げ茶で使うには暗すぎるが、同系のトーン変化でコントラストを付けると遠近感や立体感を感じさせる効果がでる。重量感のある材料をたっぷり使うよりも、配色で落ち着いた印象に仕上げるのに役立つ色である。茶色は全般的に木部との配色性に優れている。



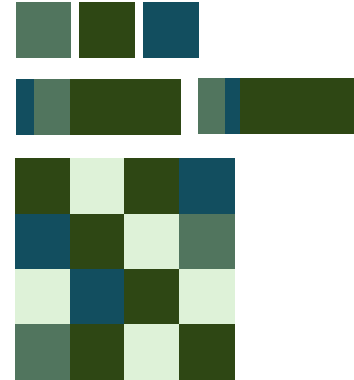
G³ 団栗／どんぐり
10YR 3.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い黄/ダークイエロー

同じ焦げ茶色でも多少黄色に寄っているため上品な感じに仕上がる。寒色系のアクセントと組み合わせることでさらにバランスが取れた構成になる。艶を消した仕上げやきめ細かな素材が似合う。



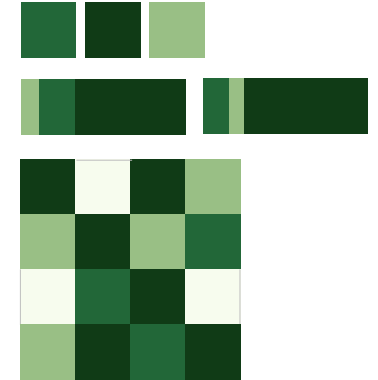
G⁴ 熊笹／くまささ
5GY 3.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い黄緑/ダークイエローグリーン

自然の変化を背景として支える緑として一番暗いトーンであるが、白やブルーを取り込むことですっきり感が出てくる。緑を大切にするには自動的に緑色が美しく見えるような配慮が求められる。そのためには自然の緑よりも暗いトーンが必要と思われる。



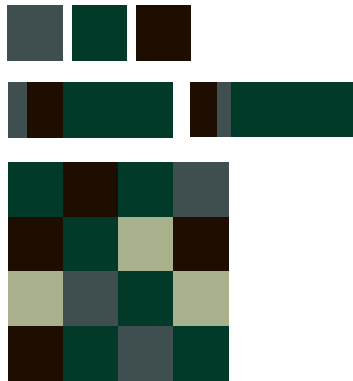
G⁵ 芸術の森／げいじゅつのもり
2.5G 2.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い緑/ダークグリーン

真夏の生い茂った樹木の影がこの深緑である。少し青みを感じる程度であるが、洋風なイメージを与えてくれる。艶を出した素材や透明感のあるガラス等とマッチングしやすい特徴を持っている。



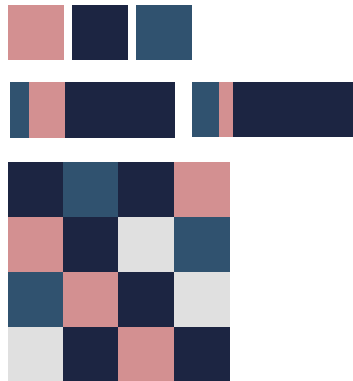
G⁶ 蝦夷松／えぞまつ
2.5BG 2.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い青緑/ダークブルーグリーン

深い陰影を強調するような紺緑や見切りに使われる色であり、特に焦げ茶とのバランスが取りやすい。格調の高い品質感を感じさせる色でありながら、ソフトなイメージも感じさせるデリケートなトーンである。アクセントや部分使いにしてもかなりセンスの良さが求められる。



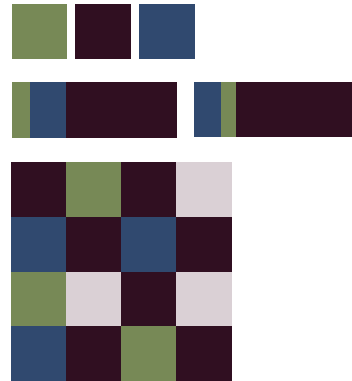
G⁷ 藍の里／あいのさと
5PB 2.3/2.5 Dgr tone
ごく暗い青/ダークグレイッシュブルー

全ての色のバックグラウンドとして最も使用頻度の多い色がこの濃紺である。どんな色ともマッチングできる不思議な特徴を持ち、配色上で合わない色がないくらい便利でバランスが取りやすい基本色である。同じ基本色の白との組み合わせで使われることが多い。



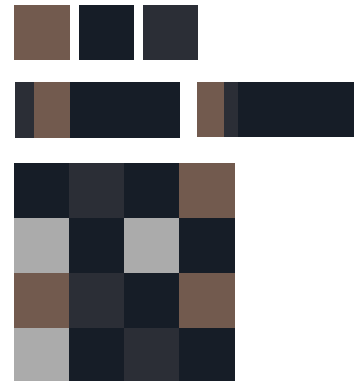
G⁸ 蝦夷紫／えぞむらさき
5RP 2.3/2.5 Dgr tone
ごく暗い紫/ダークグレイッシュパープル

紺色と比べるとかなり特殊な色である。ファッションカラーとして扱われることも多く、ほんの一部のアクセントカラーとしての使い方がせいぜいである。夜間には多少照明効果でやわらげることも考えられる。しかし、寒色系との組み合わせで普通に見られる配色になる。



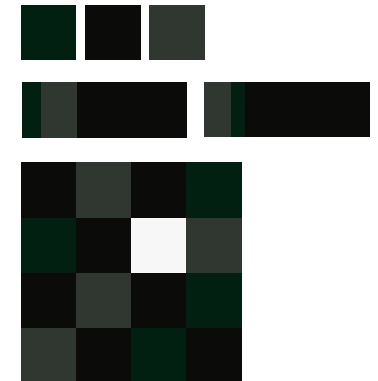
G⁹ 月無夜／みっどないと
5PB 2.0/1.5 Dgr tone
ごく暗い灰青/ダークグレイッシュブルー

通常の濃紺よりもさらに暗いトーンである。構造物全体のイメージから消したい装飾物などに使うことができる。大きくて目立っている物を気にならないイメージにするにはグレーやこの色をミックスさせて使うことで効果が得られる。景観全体に引き締まった印象を与える色であり、濃い緑やダークなグレーと同じ機能を持っている。



G¹⁰ 墨烏／すみがらす
N1.5
黒/ブラック

完全に背景色としての役割を持つ色の代表である。白い冬には反対に目立つ色であるが、普通は消したい部分の色として使われることが多い。配色上はどんな色にもマッチングしやすい特徴を持っている。



*この資料は印刷による表現であり実際のマンセル値とは異なりますので、正確には塗装見本を参考にしてください。